



2005年3月2日

ロールス・ロイス、ANA と TRENT 1000 エンジンの契約を締結
TRENT ファミリーによる就航 10 周年の祝賀に合わせて調印式を実施

【英国 2005 年 3 月 2 日】民間航空、防衛航空、船舶、エネルギー各分野の世界市場において事業展開するロールス・ロイス社（本社：英国ロンドン、CEO：サー・ジョン・ローズ、以下「ロールス・ロイス」）は、Trent シリーズエンジンの商用運航 10 周年記念および、全日本空輸（ANA）との Trent 1000 受注契約の調印式を同時開催しました。

この契約調印式はロンドンにおいてロールス・ロイスの会長サイモン・ロバートソン（Simon Robertson）および ANA の大橋洋治社長により執り行われました。

記者会見の席でロバートソン会長は次のように述べました。「ANA の果敢な将来ビジョンに 787 型機は大きな役割を果たすことになることなのでしょう。ANA と当社はかつてパートナー関係にありました。再び ANA のパートナーとなれることに大変な期待感をもっています。」

続けてロバートソン会長は次のように述べました。「当社の目標は、全ての最新のロールス・ロイス製エンジンを就航期間全般にわたって、できる限り低い所有経費で提供することです。航空業界における価格のハードルは総じて高くなっていますが、当社はこの困難を克服することができる自信があります。」

ロバートソン会長は、Trent シリーズの開発における日本のパートナーとサプライヤーの素晴らしい貢献を賞賛しました。現在、川崎重工業、三菱重工業、石川島播磨重工業、丸紅がリスク収益分担パートナー（RRSP）として各種 Trent プログラムに参加しており、Trent 1000 エンジン開発プログラムには川崎重工業と三菱重工業が参画しています。

さいごに、ロバートソン会長は次のように締めくくりました。「初代 Trent エンジンによる初就航から 10 周年を記念する本日、ANA と新しい Trent ファミリーエンジンに関する契約調印式典を開催できたことは非常に感慨深く、日本市場で大きな一歩を踏み出せたことを嬉しく思います。」